

日本冷凍空調学会 会誌「冷凍」執筆要綱

昭和54年 2月23日	常務理事会決定
昭和59年 4月27日	常務理事会決定
昭和61年 5月27日	常務理事会一部改正
平成 8年10月18日	常務理事会一部改正
平成12年10月20日	常務理事会一部改正
平成18年 2月21日	常務理事会一部改正
平成22年 2月26日	常務理事会一部改正

1. 「冷凍」の目的
2. 記事の種類
3. 投稿規定
4. 執筆規定
5. 文献
6. 校閲規定

1. 「冷凍」の目的

日本冷凍空調学会会誌「冷凍」は日本冷凍空調学会定款第3条および第4条に基づいて毎月一回発行するもので、広く低温、冷凍、空気調和、食品などの科学・技術およびこれに基づく産業の発達に寄与し、併せて会員相互間の情報媒体として最新技術の交換と相互の啓発を目的とする。

2. 記事の種類

記事は内容により、次のように分類する。

- (1) 巻頭言：会長の就退任挨拶、年頭挨拶、特集号発行の趣旨、会員および学識経験者の提言など。
- (2) 論説：本誌の目的に関連した科学技術と産業分野の諸問題についての現況、将来などを全般的にとりあげた評論または展望など。また、本誌の目的に関連した諸問題のうち、会員全般にわたる内容を有する提言などを含む。
- (3) 解説：本誌の目的に関連ある特定の課題について、技術や製品の現状の紹介、研究成果（発表された研究論文などの具体的説明などを含む）や開発結果および具体的な技術とその内容などについてわかりやすく記述したもの*。
- (4) 講座：特定の技術課題に関する基礎理論および関連基礎技術の諸問題をわかりやすく解説したもので単編または連載の形をとるもの*。
- (5) 技術資料：実務上の設計、施工、積算、品質管理などに利用して有益と思われる参考データ、計算図表など。
- (6) 新技術・新製品・新設備紹介：新しく開発された機器の機能、特性、構造、経済性など、または新しく設置された特色ある設備の設計意図、概要、特徴などについて簡潔に述べたもの。
- (7) 海外文献紹介：関連する外国文献の全訳または抄訳による紹介。
- (8) 記録：講演会、座談会、シンポジウムなどの全部または要旨を記録したもの。
- (9) 報告記：視察、見学、調査などの結果をまとめたもの、および本会が主導した研究成果の報告。
- (10) 統計：関連する統計データ。
- (11) 法規・規格：法規、規格、基準などの紹介またはその解説。
- (12) 試験：各種資格試験の問題の紹介と解答例およびその解説。
- (13) 相談室：技術関連問題の質問とその回答など。
- (14) サロン：会員からの随筆、意見、情報、体験などの紹介など。
- (15) 研究論文レビュー：日本冷凍空調学会論文集掲載論文などの要旨。
- (16) 行事：国内外で行われる学術的または技術的行事のうち、特に本会に関連のある会合などについての開催通知など。
- (17) 会務：本会の行事の開催通知、理事会、委員会などの発足、経過、終了報告、記録および事業

*記述の水準は新入会員にも充分理解できる程度とする。

報告、会員消息など。

- (18) 海外ニュース：海外のできごとのうち、ニュース価値が高く、有益なもの。
- (19) 国内ニュース：国内のできごとのうち、ニュース価値が高く、有益なもの。
- (20) その他：上記以外のもの。

3. 投 稿 規 定

- (1) 投稿者の資格：「冷凍」への投稿者は原則として本会の第2種正会員、名誉会員、特別会員、学生会員に限る。ただし、特に学会誌編集委員会で認めたときはこの限りでない。
- (2) 著作権：「冷凍」に掲載された記事の著作権は本会に帰属する。投稿者は、本会で定めた“(社)日本冷凍空調学会著作権規程”に同意した上で、本会規定の“著作権譲渡証”を提出する。
- (3) 掲載区分：原稿は執筆要綱2.記事の種類の種類による。
- (4) ページ数：刷り上がりページ数は次による。
論説・解説・講座 10ページ以内 その他 6ページ以内。
ただし、学会誌編集委員会が特に認めた場合はこの限りではない。
- (5) 原稿の採否：執筆要綱6.校閲規定による。
- (6) 原稿の責任：“(社)日本冷凍空調学会著作権規程”により、著者が責任を負う。
- (7) 提出先：〒160-0008 東京都新宿区三栄町8三栄ビル
社団法人日本冷凍空調学会 冷凍編集係
TEL 03(3359)5231 FAX 03(3359)5233 E-mail: reito@jsrae.or.jp
- (8) 原稿受付日：原稿が本会に到着した日をもって受付日とする。ただし、内容の訂正、照会または修正を依頼した原稿については、本会からの発送日より2ヵ月以内に著者よりの回答とともに原稿が返送されない場合は最初の受付日は無効とする。
- (9) 校閲および校正：原稿は執筆要綱6.校閲規定により、校閲を行う。著者校正は一回行う。原則として文章または図表の変更や追加には応じない。著者は校正刷り受取り後3日以内に校正を行い至急返送する。
- (10) 原稿料：「冷凍」に掲載ののち本会規定の原稿料を支払う。
- (11) 別刷り：記事の別刷りについては、著者の申し出があったとき、著者の実費負担により作成する。別刷りの申し込みは、著者校正を返送の際、本会冷凍編集係に通知する。著者以外の者からの別刷りの要求には応じない。
なお、論説、解説、講座、技術資料、海外文献紹介、法規・規格の著者において、PDFファイルを希望する場合は、無料贈呈する。
- (12) 原稿の返却：原稿正文は初校用校正刷り送付のときに同封して著者に返却する。著者作成の写真、版下などは印刷終了後に返却する。本会に到着するまでの間の原稿に関する事故については、本会はその責を負わない。

4. 執 筆 規 定

- (1) 使用言語
原則として日本語とする。
- (2) 原稿用紙
ワープロの場合はA4の普通紙で可。10ポイント以上の文字により1行25字で印字する。
手書きの場合は本会規定の原稿用紙を用い、黒ペンを使い、左横書きとする。
いずれの場合も表紙は本会規定のものを添付する。
- (3) 英文表記
論説、解説、技術資料、新技術・新製品・新設備紹介には、英語による表題、著者名、所属を付記する。

(イ) 表題

(例) 蒸発冷却器の性能

Performance of Evaporative Cooler

(ロ) 著者名

ローマ字書きの様式は以下の例による。

(例) 山田太郎・川上次郎・山川三郎

Taro YAMADA, Jiro KAWAKAMI, Saburo YAMAKAWA

(ハ) 所属

(例) 東京大学工学部

Faculty of Engineering, The University of Tokyo

(4) サマリー

論説、解説、技術資料、新技術・新製品・新設備紹介には、120語以内の英文サマリー、および和文要約を付記する。

(5) 本文の体裁

章、節、項、小見出しの記号は原則として下記の要領に従って表現する。

章 1. 2. 3. 節 1.1 1.2 1.3

項 1.1.1 1.1.2 1.1.3 小見出し (1) (2) (3)

(6) 文 章

(イ) 文章は平易な口語体（である、など）とし、原則は常用漢字、現代かなづかいによるものとする。特殊な用語で難読または誤読のおそれのあるものは最初に使用した箇所にかっこしてふりがなを併記する。意味のわかりにくい用語については文章の末尾に簡単な解説を加える。

(ロ) 句読点はコンマ（,）、ピリオド（.）を使用し、語句の並列の場合はコンマ（,）、外国語やかな書き名などの中区切りは中黒（・）とする。

例：（語句の並列）圧縮機，凝縮器および蒸発器

（2語以上の外国語のかな書き）コンプレッサ・プーリ

(ハ) 本文および行を改めた場合の書き出しは1文字分空白を設ける。

(ニ) 外国語をカタカナ書きにする場合は、必要に応じてかっこして原語または日本語による説明を併記すること。なお英語以外のものは当該外国語名を略記すること。

例：ハイドロフルオロカーボン（Hydrofluorocarbon） フェアデイヒタ（独 Verdrichter）

(ホ) 数量を表す場合はアラビア数字を使う。ただし、名称、概数を表すものなどは漢字とする。

例：1, 2, 3, 4 0.1234 1894.4

一次，二次元，三角関数，四捨五入，十進法，一つの，何十人，二，三の例

(ヘ) 年度を表す場合は、今年度、昨年度などとせず、西暦による年度を使用し、かっこして日本年号を併記する。

例：2010(平成22)年

(7) 用語、単位、記号

(イ) 学術用語は原則として文部省編「学術用語集」および本学会発行の冷凍空調・食品用語集による。

(ロ) 単位は JIS Z 8203（国際単位系（SI）およびその使い方）に記載された国際単位系（SI）を使用する。SIに含まれない単位から SI 単位への換算は JIS Z 8203（国際単位系（SI）およびその使い方）による。なお単位記号の字体はローマン（立体）とする。

(ハ) 記号は原則として JIS Z 8202（量記号，単位記号および化学記号），JIS Z 8201（数学記号），JIS B 8601（冷凍用図記号）を尊重する。なお，量記号の字体はイタリック（斜体）とする。

(ニ) 原則として商品名を使用してはならない。

(ホ) 冷媒番号は、R 134a のように R と記号の間に 1/4 角スペースを挿入する。

(8) 数 と 数 字

(イ) 数字の書き方は下記のようにする。なお、小数点 (.) は中央より下に打つこと。

例：.123 → 0.123, 1`234 → 1.234, 1,234.5 → 1 234.5, $1.23 \cdot 10^{-8} \rightarrow 1.23 \times 10^{-8}$

(ロ) 数式として独立して記載せず、本文の途中に出てくる式は下記のように 1 行にまとめる。

例： $\frac{a}{b} \rightarrow a/b$, $\frac{a+b}{c} \rightarrow (a+b)/c$, $\frac{a+b}{c+d} \rightarrow (a+b)/(c+d)$, $\frac{a}{b} + \frac{c}{d} \rightarrow a/b + c/d$

(ハ) 数式は(1), (2), (3)などの通し番号を付し、文中に引用する時は式(1), 式(2), 式(3)などと記す。

(ニ) 式中のかっこの使い方は [{ () }] の順序による。

例： $z = A[x + B\{y + C(x + 1)\}]$

(9) キーワード

(イ) 論説、解説、技術資料、新技術・新製品・新設備紹介にはキーワードを付記する。

(ロ) 選定の方法

全体の内容が推測できるような語句を、著者自身が選定する。

(ハ) 使用言語

日本語と英語を併記する。

(ニ) 選定語数

基本キーワード集から 2～3、執筆内容より著者自身が 3～5、合わせて 5～8 とする。

(ホ) 原稿への記載

本学会規定の原稿表紙の指定欄に記入する。

(ヘ) 選定要領

a) 具体的な意味のある語句を選ぶ。

b) 名詞形を用いる。

c) 省略形は、冷凍・空調の分野で広く通用しているものに限る。著者の作った新語は原則として使用しない。

d) 複合語や句は慣用されているものに限る。

e) 最後に選定したキーワードで短文を作ってみて、当然すぎるために選定もれとなる語がないかを確認する。

f) 取捨に迷う語はどちらかというに加えておく方が好ましい。

(10) 図、写真、表

(イ) 図、写真、表は必要最少限のものを選択し、その説明を本文中に入れる。ただし原則として、カラーによる印刷は受け付けない。

(ロ) 図、写真、表を別紙とする場合は、本文原稿右端の余白部に挿入箇所を指定する。

(ハ) 図、表の番号は次による。なお写真は図として取り扱う。

図 1 表 1

(ニ) 図についてはその下側、表についてはその上側に番号および内容を的確に表現する簡潔な表題を付ける。

(ホ) 図、表は鮮明であって、できれば墨入れしたものを提出すること。内容に不正確、不鮮明なものがある場合には書き直しを求められることがある。

(ヘ) 写真は鮮明なプリントであること。

(ト) 図、表の原稿は刷り上がりを考慮し複雑なものを避ける。図面の刷り上がりページ数推定のための字数換算は刷り上がり図面の大きさにより次のようになる。

図の刷り上がり大きさ (左右×天地)	換算字数	図の刷り上がり大きさ (左右×天地)	換算字数
8 cm × 4 cm	220 字	8 cm × 7 cm	340 字
8 cm × 5 cm	260 字	8 cm × 8 cm	380 字
8 cm × 6 cm	300 字	8 cm × 10 cm	440 字

(注) 左右 17.5 cm の場合は、それぞれ換算字数の 2 倍。
17.5 cm × 8 cm は 8 cm × 8 cm の 2 倍の 760 字となる。

(11) 文 献

- (イ) 本文作成に当たって引用または参考にした文献は、本文末尾にまとめて記載する。
- (ロ) 文献の記載番号はその記事を通しての通し番号とし、文章中の当該箇所の右肩に〇〇〇^{1,2)}、〇〇〇²⁻⁵⁾のように付す。
- (ハ) 文献の記載方法は次の形式による。同じ雑誌が並ぶときは、同上誌 (ibid.) と略してもよい。なお原著が和文の文献名を英語で記するときには (in Japanese) と併記する。
- a) 雑誌の場合
著者名：雑誌名，巻 (号)，ページ (発行年)。(巻は太字とする)
(例) 田中太郎：冷空論，**26**(1)，42 (2009)。
田中太郎，伊藤次郎……：(全著者名を示す)
T. Tanaka : Refrigeration, **71**(830), 42 (1996). (in Japanese)
G. Lorentzen and T. Gac : Int. J. Rerig., **6**(5), 289 (1984).
- b) 書籍の場合
著者名：「書名」(英語の場合は“書名”)，巻 (1 巻のみの時は不要)，改版 (編者名)，引用ページ，発行所，発行地 (発行年)。
(例) 田中太郎：「冷凍機」，pp.40-42，日本出版，東京 (1996)。
田中太郎：「空気調和」，3 巻，第 2 版 (伊藤次郎編)，pp.50-53，空調書籍，大阪 (1996)。
T. Tanaka : “Refrigerating Machine”，pp.40-42, Japan Publishing Co., Tokyo (1996). (in Japanese)
J. Ito : “Air Conditioning”，Vol. 3, 2nd ed., (ed. by T. Tanaka), pp.45-46, Air Conditioning Press, Tokyo (1983). (in Japanese)
F. Franks : “Effects of Low-temperatures on Biological Membranes”，(ed. by G. J. Morris and A. Clarke), pp.3-19, Academic Press, London (1991).
- c) 訳書の場合
原著者名 (訳者名)：「書名」(英語の場合は“書名”)，引用ページ，発行所，発行地 (発行年)。
(例) J. H. Wilkinson (守屋寛，吉田光孝，藤本光男 訳)：「低温微生物」，pp.60-65，丸善，東京 (1953)。
A. E. Kriss (Translated from Russian by J. M. Shewan and Z. Kabata) : “Low Temperature Preservation Foods”，pp.43-51, Oliver and Boyd, Edinburgh, UK (1996).
- d) 国際会議論文集の場合
著者名：講演論文集名，巻，ページ，開催地 (開催年)。
(例) G. Lorentzen : Proceedings of New Applications of Natural Working Fluids in Refrigeration and Air Conditioning, pp.23-36, Hannover, Germany (1994)。
M. J. P. Jansen, F. L. M. Engels and L. J. M. Kuijpers : Proc. 19th Int. Cong. Refrig., Vol. IVb, pp.860-867, Hague, Netherlands (1995).
- e) 国内学会講演論文集の場合
著者名 (全著者名を示す)：講演論文集名，巻，ページ，開催地 (開催年)。
(例) 冷凍太郎，空調花子：2010 年度冷空講論，pp.1-4，東京 (2010.9)。
T. Reito and H. Kucho : Proceedings of 2010 JSRAE Annual Conference, pp.1-4, Tokyo (2010). (in Japanese)
- f) 技術資料 (カタログ) の場合

技術資料名：発行会社名, (発行年).

g) 特許の場合

発明者名：「発明名」(英語の場合は“発明名”), 特許・出願・公開番号 (年).

(例) 冷凍太郎, 空調花子：「冷凍装置」, 特願平 14-123456 (2002).

T. Reito and H. Kucho：“Refrigerator”, US Patent 1234567 (2002).

h) Web サイトの場合

Web サイト URL：(引用年).

(二) 雑誌の略記

雑誌名は略記が許される.

a) 国内雑誌の場合

日本冷凍空調学会論文集——冷 空 論 Trans. JSRAE

日本冷凍協会論文集——冷 論 Trans. JAR

日本冷凍空調学会年次大会講演論文集——冷空講論 Proceedings of (西暦年号) JSRAE Annual Conference

日本冷凍空調学会学術講演会講演論文集——冷空講論 Proceedings of (西暦年号) JSRAE Annual Conference

日本冷凍協学会学術講演会講演論文集——冷 講 論 Proceedings of (西暦年号) JAR Annual Conference

冷 凍——冷 凍 Refrigeration または Refrig.

空気調和・冷凍連合講演会講演論文集——空冷連講論 Proceedings of the ○st Japanese Joint Conference on Air-conditioning and Refrigeration

日本機械学会論文集——機 論 Trans. Jpn. Soc. Mech. Eng.

日本機械学会誌——機 誌 J. JSME

空気調和・衛生工学会論文集——空 衛 論 Trans. SHASE

空気調和・衛生工学会誌——空衛学会誌 J. SHASE

食品衛生学雑誌——食 衛 誌 J. Food Hyg. Soc. Japan.

日本食品科学工学会誌——食 科 工 Nippon Shokuhin Kagaku Kogaku Kaishi

日本水産学会誌——日 水 誌 Nippon Suisan Gakkaishi

中央水産研究所報告——中央水研報 Bull. Natl. Res. Inst. Fish. Sci.

日本農芸化学会誌——農 化 Nippon Nogeikagaku Kaishi

b) 外国雑誌は ISO833 の省略法に準拠する.

5. 校 閲 規 定

(1) 編集の責任：「冷凍」の編集は編集委員会の方針の下に, その責任において行う.

(2) 原稿内容の責任：原稿内容の最終責任は著者にある.

(3) 原稿の校閲：すべての原稿は編集委員会で選定した校閲者が, その内容が「冷凍」編集方針に照らして適当かどうかを判断するために校閲し, 採否, 修正の要否の判定および掲載記事の分類を行う.

(4) 校閲者の選任：各原稿ごとにもっとも適当と思われる者を本会会員の中より校閲者として選任する.

(5) 校閲の秘密保持：校閲者名はいかなる理由があっても著者および一般に公表しない.

(6) 校閲の方法および期間：校閲者は本要綱に基づいて校閲を行い, その結果を「原稿校閲報告書」に記入し, 原稿を受け取ってから原則として 20 日以内に編集委員会に提出する.

(7) 採否の決定：校閲済の原稿は, 校閲者の意見に基づき, 編集委員会でその採否を決定する.

(8) 採用された原稿：採用の決まった原稿は, 著者に採用された旨を通知し, 編集計画に基づき速やかに「冷凍」に掲載する.

(9) 修正または掲載否とされた原稿：修正と判定された原稿は, 校閲者の意見など記載した文書を添えて編集委員会名で著者に修正を依頼する. 修正された原稿は再校閲する場合がある. 掲載否と認められた原稿は, 校閲者の意見など記載した文書を添えて編集委員会名で著者に返送する.

(10) その他の手続：校閲規定に記載のない事項は, その都度編集委員会で定めるものとする.